

授業科目名 (講義題目)	生産管理		開講学期 単位数	前期 2単位
担当教員	目代 武史		講義コード	科目区分 対象学生
			17176008	
開講予定日	① 4/13 ② 4/20 ③ 4/27 ④ 5/1 (月) ⑤ 5/11 ⑥ 5/18 ⑦ 5/25 ⑧ 6/1 ⑨ 6/8 ⑩ 6/15 ⑪ 6/22 ⑫ 6/29 ⑬ 7/6 ⑭ 7/13 ⑮ 7/27			
履修条件	特になし	キーワード	良い流れづくり、品質、コスト、納期、柔軟性、VSM、もの造りの組織	
全体の教育目標	日本のものづくりの基盤をなす思想、仕組み、管理ツール、作業・管理組織の理解	個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産の良い流れの理解</li> <li>・流れの分析ツールの習得</li> <li>・ものづくりの背景にある思想、仕組み、前提条件の理解</li> </ul>	

授業の概要	<p>生産管理の役割は、生産の良い流れを設計し、維持し、改善することにある。本講義では、「流れづくり」という観点から、(1) 生産管理の全体像を描くとともに、(2) 流れを分析するためのツールの習得、(3) 流れを改善するための考え方や方法論について学習する。</p> <p>具体的には、トヨタ生産方式を源流とするリーン生産方式の考え方にに基づき、品質 (Quality)、コスト (Cost)、納期 (Delivery) の維持・改善とともに、生産の柔軟性 (Flexibility) の向上をいかに図っていくかを学んでいく。また、生産の流れを分析する手法として、バリュー・ストリーム・マッピング (VSM、トヨタでは「モノと情報の流れ図」として知られる) を紹介し、VSM を用いた生産改善について学ぶ。</p> <p>さらに、今後の生産管理の在り方を考えるために、日本のものづくりが拠って立つ前提条件である生産組織や労務管理の特徴、情報技術の影響についてもとりあげ考察していく。授業でとりあげる主なトピックは以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生産システムの歴史</li> <li>2. 生産プロセス分析</li> <li>3. 品質管理</li> <li>4. コスト管理</li> <li>5. 生産計画</li> <li>6. 流れの改善</li> <li>7. 生産の柔軟性</li> <li>8. サプライチェーン・マネジメント</li> <li>9. 生産組織・労務管理</li> <li>10. 生産管理の未来</li> </ol>
授業の進め方	<p>教科書を用いた講義を中心に進め、仮想の生産管理の問題に関するワークショップを併用する。また、受講者に教科書や参考文献などのまとめ・考察を発表してもら場合もある。※本講義の受講を検討している人は、必ず初回のガイダンスに参加してください。</p>
教科書および参考図書	<p>【教科書】 富田純一、糸久正人 (2015) 『コア・テキスト 生産管理』 新世社</p> <p>【参考図書】 授業のさらなる理解のため、講読を薦める文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大野耐一 (1978) 『トヨタ生産方式：脱規模の経営をめざして』 ダイヤモンド社</li> <li>・木村英紀 (2009) 『ものづくり敗戦：「匠の呪縛」が日本を衰退させる』 日本経済新聞出版社</li> <li>・エリヤフ・ゴールドラット (2001) 『ザ・ゴール：企業の究極の目的とは何か』 ダイヤモンド社</li> <li>・藤本隆宏 (2001) 『生産マネジメント入門 I (生産システム編)』 日本経済新聞社</li> <li>・藤本隆宏 (2001) 『生産マネジメント入門 II (生産資源・技術管理編)』 日本経済新聞社</li> <li>・藤本隆宏 (2012) 『ものづくりからの復活：円高・震災に現場は負けない』 日本経済新聞出版社</li> <li>・マイク・ローザー、ジョン・シュック (2001) 『「モノ」と「情報」の流れ図で現場の見方を変えよう !!』 日刊工業新聞社</li> </ul>

---

試験・成績評価の方法等

- 小レポートの提出 50%
- クラスでの発表・質疑 25%
- 最終レポート 25%